

[エッセイ]

他者理解の為の自己と他者の心情に対する 自己处理的思考

眞崎 一美(九州大学大学院芸術工学研究院 長津研究室テクニカルスタッフ)

抄録

私は、“アート”とは、他者理解による人間同士の関わり方の変化や個人の価値観の変化、それらの経緯も含め、人の心/心情が動かされる物事だと思っています。一方“ケア”とは、人が生きていく為に人間同士が協力し合い困難を乗り越えていく為に備わった本能の一つだと捉えていて、その為には、他者理解や価値観の変化が重要だと考えています。広義のアートとケアには、他者理解など人の内面の変化について共通点が多くあり、その関係がうまくいくことで、人は困難を乗り越えながら生きていくことができると思っています。今回、言い表すことが難しい私の内面で行われている思考過程を3つの作品として表現しました。Kokoro_3は、辛い心情を秘めた人の境界線を私が超えてしまった時を表現しています。私の内面では2つの心情が悩みとして存在し、各心情は悩みを解決する為の思考の手がかりとしても存在します。michishirubeは、私の悩み/心情のゆらぎを簡易的に表したもので、思考の手がかりとして使用します。私と相手の各心情やお互いが相手に対して思っている人間関係(家族、身内など)を位置づけ、両者の関係を内面と表面から認識することができ、両者が折り合う方法を考えられるようになります。次に、相手も持っている辛い心情が少しでも軽減され気持ちが楽になるように、私がどのような接し方や声掛けをすればよいかを考えます。kakeは、その為に考えたいくつかの具体的な行動例で、その行動の結果、成功することもあれば失敗することもあります。この一連の思考過程を私は、“半分の仕方”と呼んでいて、これが他者と向き合う際の心情に悩む人たちのヒントになればと思います。

Key word

他者理解

コンテンツ

Kokoro_3、michishirube、kake、の順にご覧ください。

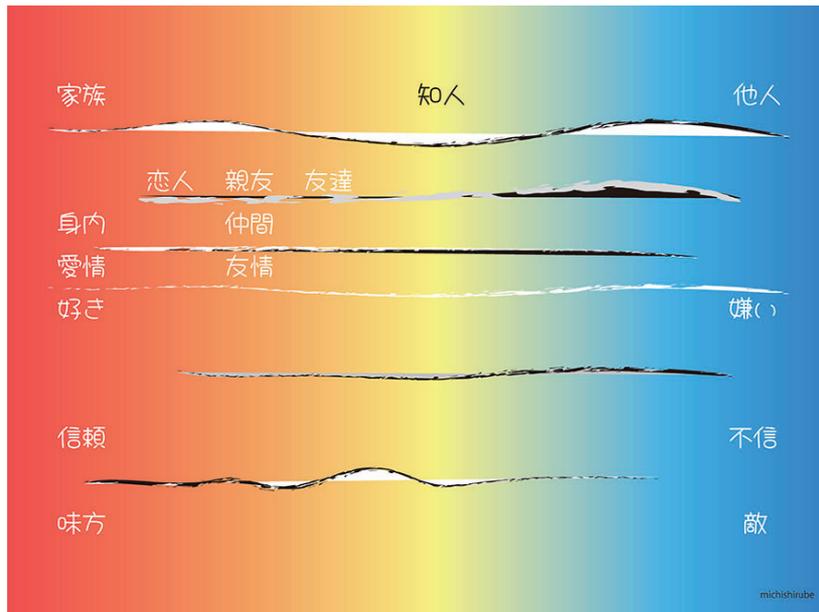


そこに広がっていた世界は
ほとんど開けられることのない
ブラインドだらけのとても狭い世界で
淋しさや怒りが当たり前になっていて
悲しみが日常化し過ぎていて
何の違和感も感じずに
一見楽しく幸せそうに暮らしている世界だった

Kokoro_3



<https://youtu.be/Pjverdwgzbl>



淋しいのもわかる
怖がっているのもわかる
辛いのもわかる
苦しくて、もがいているのもわかる
頑張っているのもわかる

あなたから伝わってくるもの全部、嘘じゃない
私はあなたじゃないから完全にはわからないけど
あなたから受け取ったものに間違いはない

だからそれを半分こしよう 🥰

一緒にいよう 😊
一緒に話そう 😊
一緒に楽しいことしよう 😊
一緒に泣こう 😊
一緒に笑おう 😊

そして一緒に元気になろう 🍊

ね、私のことどれくらい受け入れてくれる？
ほんのちょっとでもいいよ
全然なし、でもいいよ
気が向いたら声かけて
私も気が向いたらまた声かけるからさ

kake

選者からのコメント

本稿へのコメントはこちらのリンクをご覧ください。
https://artmeetscare.org/wp-content/uploads/2024/03/A.Mori_vol15_26-27.pdf

選者

森 合音(四国こどもとおとなの医療センターアートディレクター／NPOアーツプロジェクト理事長)